



21日、上野動物園にシナから借りたパンダが日本に来る予定である。日本のマスコミの報道によると、日本中の人々のパンダに対する関心は高まり、地元の商店街も大きく期待しているという。

共同社北京の報道によると、シナ外務省の報道局長は、17日の定例記者会見で上野動物園に引き渡されるジャイアントパンダのつがい2頭について「両国国民の友好の使者となることを期待する」と述べ、「パンダ外交」による日中関係改善に期待を示した。

元々私はパンダという動物自体が嫌いというわけではないのだが、シナ外務省のその話を聞いたとたん、なんとなく嫌な予感となった。恐らく、パンダが来たら、反日マスコミは再び「日支友好」のムードを作り、尖閣事件がきっかけで目覚めた日本人の反シナ感情が冷え込むのではないかと。

パンダには罪がないが、日本の領土を侵略しようとしながら、一方でパンダを利用しお金を取りながら、懐柔の手段として「パンダ外交」を演出するシナ共産党はどうしても許せない。

沢山の日本人はパンダが好きだが、パンダに関する知識、正しい認識は少ない。

パンダはチベットの固有種とは言いきれないかもしれないが、シナ人がチベット人の居住地から奪った動物であるにちがいない。

パンダを始めて発見したのはシナ四川省と聞いたが、現在シナ共産党が規定した行政区域であるチベット自治区の地域だけがチベットの領土ではない。

元々チベットの領土は現在チベット自治区と言われた地域の二倍であるという。

確かに古代シナの本ではパンダは漢民族の地域に生存した記述はあったらしい。

しかし、かつて長い歴史の中で、飢え、戦乱に満ちた漢民族の動物乱獲、森林乱伐の結果により環境生態系を破壊し、シナ人が暮らしていた地域に残った資源はわずかしかない。

シナの石油は旧満州国、ウイグルからとっている。

天然ガスも主にウイグルから調達し、シナ固有の貴重動物といわれた東北虎（本当の名前は満州虎であるはず）、チベットカモシカ、パンダ、レッサー・パンダの生存地は殆ど漢民族以外の地域、四つ足のものは机と椅子以外全て、空を飛ぶものは飛行機を除いて、何でも食べるシナ人（漢民族）

が生活している地域では、森が少なく野生動物が生き残れるわけがない。

シナ人は世の中で一番残虐な民族であり、目の前の金銭、利益のため、生きている人の心臓、肝臓などの臓器でさえ取ってしまう。

チベットのパンダをシナの国宝と見なしていることは、シナ人が動物を愛護しているためであるのか？とんでもない、ただパンダは可愛さ、希少さによって世界中の人々に愛されているため、利益を取るために政治、外交の道具としてシナ共産党に利用しているだけ。

パンダの密猟はシナでは重罪とされている。

かつてパンダの毛皮を手に入れるため、パンダを密猟し処刑されたシナ人は一人、二人ではなかった。

鑑賞、政治利用の価値が高い動物パンダは、シナでは人の命より高い。パンダはシナ人がチベットから盗んだ動物、シナ軍のチベット侵略、大虐殺の象徴とも言えるのではないかと。

シナ共産党はチベットから数え切れない資源、貴重な動物、植物を略奪し、チベット人先祖代々が暮らしている雪山、高原を横取りした。シナ人の侵略、領土拡張の野心は消える事がない、シナ人の民族性では全世界のものすべて自分が所有するものになると望んでいる。

パンダ外交の裏には、シナ軍が虐殺した沢山のチベット人の血が流れている。

日本人はいくらパンダが好きだとしても、この残酷な事実を決して忘れてはいけない。

後二日、パンダはまもなく日本の上野動物園に着く。

日本の保守市民団体の皆様、ぜひこの機会を利用し、動物園でお客様にシナ共産党のチベット侵略、虐殺の歴史を説明して下さい。

チラシ配布でもいい、イベントおよび小型宣伝活動でもいい、もっと多くの日本人にパンダの真実、シナ共産党による虐殺の事実を伝えてほしい。

シナ共産党は現在もチベット、ウイグル人への弾圧、虐殺を行っている。

さらに日本の固有領土である尖閣、沖縄も狙っている。そんな共産支那と友好関係を築けることはありえない。

パンダの政治利用には断固反対する！

